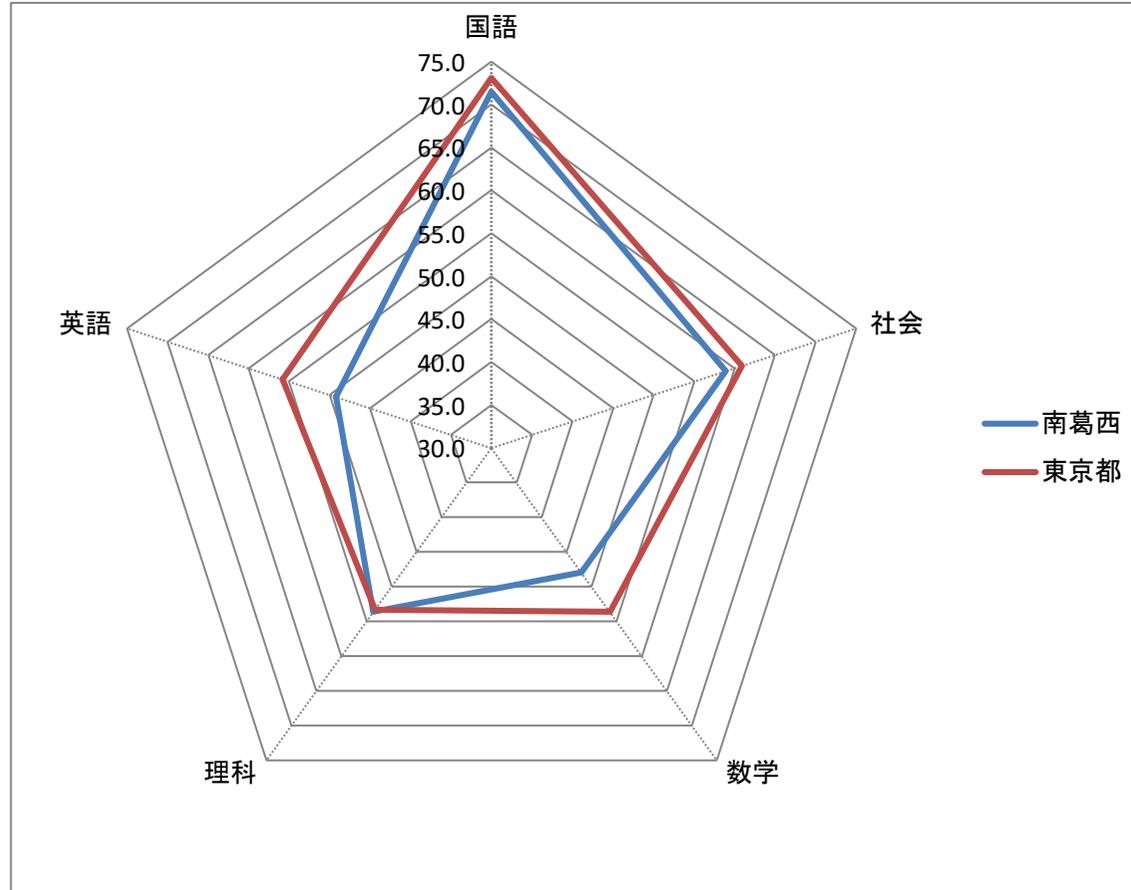


平成30年度

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」



＜現状把握＞

国語	全体的に都平均を1.6ポイント下回っている。特に「B 読み解く力に関する内容」が低く、中でも「取り出す力」が7.3ポイント下回っている。基礎基本の定着を継続するとともに、資料の読み取りや書く作業などに取り組み、読み解く力をつける必要がある。
社会	全体的にみると東京都の平均を2ポイント下回っている。A教科の内容は、思考・判断・表現、技能、知識・理解ともに下回っており、全体的な底上げが必要である。B読み解く力に関する内容は取り出す力、解決する力が都の平均を上回っている。
数学	全体的に都平均を下回ってしまっている。観点別に見ると、A問題の思考・判断・表現では8.1ポイント、技能では8.8ポイント、知識・理解では3.3ポイント低くなっている。知識・理解、技能の定着を図ることが基礎・基本を徹底させる上での急務であり、読解力を身につけ、問題を最後まで解決する力を付けさせる必要があると考える。
理科	A問題では、技能及び、知識・理解の観点において都の平均を1～4ポイント上回っている。教科の基礎・基本が定着しつつあることが伺える。B問題では、取り出す力、解決する力の観点で1ポイント弱下回っていた。読み取る力については大幅に下回り8ポイントほどの差が見られた。日ごろから表やグラフを読み取る作業を通して、基礎基本の定着を図っていくことが大切である。
英語	特にA問題の知識・理解の項目に大きな差が目立っている。校内の授業アンケートから、英語の力を伸ばしたいと考えている生徒は多いが、1年次の基礎力の積み重ねが不十分であるため、途中でつまずき、自信がもてずに意欲の低下につながっていると思われる。既習の語句や表現についても、くり返し触れる機会を今後増やしていく必要がある。

＜授業改善のポイント＞

<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストを計画的に実施し、基礎基本の定着を図る。 正しく読むための力をつける。(資料の読み取り・語彙など) グループ活動を適宜取り入れ、話し合い・発表などの力をつける。 書く作業を通じてのアウトプットの機会を増やす。 	<p>【社会】</p> <p>ワーク等を活用、小テストの実施等で基礎的基本的な内容を定着させ、ワークシートを活用することで技能を身につけさせる。また、小集団での活動を積極的に取り入れ、家庭やまとめを大切に、思考・判断・表現が高まるように指導をしていく。</p>	<p>【数学】</p> <p>現在行っている習熟度別授業を継続し、基礎・基本の徹底を図るとともに、宿題などの家庭学習を進めていく。また、放課後の質問教室などを行っていくことで数学が苦手な生徒に対するきめ細かいケアをしていく。</p>	<p>【理科】</p> <p>実験・観察を多く取り入れた授業を継続し、話し合いを通して、観察を行い、課題を掘り下げ解決する力を養っていく。また、毎授業で、前時の振り返りを行うことで基礎・基本の定着を図ることと、日常の科学に関する話題を取り上げることで興味・関心を広げていく取り組みを続けていく。</p>	<p>【英語】</p> <p>帯活動として、ビンゴやリスニング活動に日頃から取り組み、単語の定着や聞くことへの抵抗感を減らすことに努めている。また、習熟度別授業の特性を活かして、コミュニケーション活動をさまざまな形態で行っていて、授業では意欲的に取り組む生徒も多い。一方で、書いて表現することには抵抗感が強い生徒が多く見受けられるので、基本表現を使って2～3文で表現する時間を授業の中で増やし、抵抗感を少しずつ減らし、正しい文や適切な表現ができるように指導していく。</p>
---	--	--	---	---